

令和5年度事業について

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

法人の概況

- 1：名称等 公益社団法人日本植物園協会
Japan Association of Botanical Gardens（略称 JABG）
- 2：設立等 昭和22年5月1日任意団体として発足
昭和41年4月11日社団法人になる
平成25年4月1日付けで公益社団法人に移行
- 3：目的等 全国的な植物園ネットワークを通じて、植物園及び植物に関する文化の発展と科学技術の振興並びに自然環境の保全に貢献し、人類と自然が共生する豊かで持続的な社会の実現に寄与することを目的とする。
(定款第3条)
- 4：事業内容 定款第3条の目的を達成するため次の事業を行う。(定款第4条)
(1) 植物園及び植物に関する調査・研究及び資料収集
(2) 植物園及び植物に関する教育並びに普及啓発
(3) 植物多様性の保全活動
(4) 植物園に関する支援
(5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- 5：監督機関 内閣府公益認定等委員会
- 6：事務所所在地 〒114-0014 東京都北区田端 1-15-11 ティーハイムアサカ 201
- 7：公益目的事業
公1 植物園及び植物に関する科学技術の振興や自然環境の保全と文化の発展に貢献するための調査及び研究
公2 植物の栽培や自然環境の保全等についての教育及び普及啓発
- 8：収益事業等 なし

事業の状況

I：植物園及び植物に関する科学技術の振興や自然環境の保全と文化の発展に貢献するための調査及び研究（公1）

(1) 調査及び資料収集

1. 海外植物事情調査

派遣中止

2. 植物園概要

調査項目の作成

3. 国際活動

東南アジア植物園ネットワーク（6月フィリピン） 協会派遣なし

(2) 生物の多様性保全

1. 種苗交換

11月にメールで種苗交換植物リストと絶滅危惧植物種の種苗交換リストの募集案内を正会員に配布。リストは1月、3月に配布。（提供園数19園、分譲可能品目197）

2. 植物多様性保全事業

①植物多様性保全2030年目標の策定

・種子・胞子については「日本産絶滅危惧植物種の600種について自生地情報を持つ種子・胞子を保存」を目標と定め（2022年3月で492種）、「生物多様性国家戦略2023-2030」に掲載された

②第5回絶滅危惧植物保有状況調査：案内を9月末に配布し、52園から回答、取りまとめ中

③「種子・胞子・組織培養を使った保全フォーラム 先行事例から学ぶ」

期日：12月20日 オンライン 参加者91名

④日本植物園協会植物情報システム（データベース関連）：植物情報システム委員会で運用に向けて作業中

・植物特性データベース（旧称：絶滅危惧植物保全データベース）はレンタルサーバー更新のため修正作業が必要なため、現在稼働していない。復旧について検討

・ナショナルコレクションデータベース：ナショナルコレクション委員会で更新中

・植物個体管理データベース：運用規約や利用申込書類の周知、項目ごとの公開基準の決定

⑤植物多様性保全拠点園ネットワークの活動

・植物多様性保全事業年次報告2023の作成と配布（58回大会時及び全会員）。400冊作成

・外部セクターとの連携を強化した「植物多様性保全拠点園ネットワーク」の枠組み、SNSやメーリングリストなど、参加しやすいネットワーク形成サポートの実施について拠点園分科会で検討

・種子等収集活動の継続と種子保存ネットワーク強化は、拠点園を中心に環境省委託事業として実施

・特定植物保全拠点園とナショナルコレクション・コレクションホルダーとのネットワーク形成についてナショナルコレクション委員会で検討

・各地域の拠点園会議（関東6月16日、中部10月17-18日、西日本10月1日）

・全国拠点園会議（2月29日オンライン）・東日本拠点園会議（3月29日オンライン）

・シンポジウム「植物園における植物多様性保全」（10月1日 大阪公大植物園で実施）※4月に大阪公大の共同利用プログラムに応募した企画

⑥外来種対策

- ・オオキンケイギク駆除に関する広報チラシを増刷し、加盟園に追加配布
- ・ムラサキとセイヨウムラサキの誤認栽培と交雑の問題に関する会員園向けアンケートの作成
- ・ソテツの新しい外来害虫、ソテツシロカイガラムシについての情報の共有

⑦植物園における生息域外保全コレクションの質向上に向けた取り組み

- ・種子等採集活動の実施対象種リスト（ターゲットリスト）の検討
- ・ナショナルコレクション事業との連携

⑧環境省との協定に基づく連携事業

- ・「令和5年度希少野生植物の生息域外保全検討実施委託業務」の実施
- ・「絶滅危惧種の保全技術に係る調査検討委託業務」でサガリラン、キリシマイワヘゴ、ホソバフジボグサ、リュウキュウヒメハギの生息域外保全、野生復帰事業を行なった
- ・「生物多様性保全推進支援事業」でシリベシナズナ、ジュロウカンアオイなど国内希少種の生息域外保全を行なった。

⑨2030 生物多様性枠組実現日本会議（J-GBF）事業（環境省）

- ・会議に出席、広報等への協力を行なった。

⑩ワシントン条約寄託事業（経済産業省）

- ・受け入れに関する問い合わせ・相談に適宜対応し、任意放棄株の受け入れを進めた。
- ・令和5年度末の寄託管理株数は3,364株

3. ナショナルコレクション事業

委員会を3回開催、ホームページ更新、パンフレット配布や雑誌等での記事掲載による普及活動、第15～17号の認定証授与、第1回ナショナルコレクション情報交換会の開催、新規ナショナルコレクション審査、再認定審査などの活動を行なった。

①認定証の授与

第58回高知大会ナショナルコレクション認定証授与式にて以下5件のコレクションについて認定証授与を行ない、それぞれのコレクションを紹介した。

第15号 「小田急山のホテル 庭園のシャクナゲ」小田急電鉄株式会社（東京都）

第16号 「国営武蔵丘陵森林公園サクラソウコレクション」国営武蔵丘陵森林公園都市緑化植物園（森林公園里山パークス共同体）（埼玉県）

第17号 「新潟県立植物園アザレアコレクション」新潟県立植物園（新潟県）

②審査

第18号 「京都府立植物園のサクラ品種コレクション」京都府立植物園（京都府） 2024年3月1日認定

第19号 「コノフィツム属の野生種コレクション」須藤 浩（千葉県） 2024年3月1日認定

第20号 「水戸のウメコレクション」水戸市植物公園・茨城県土木部都市局都市整備課（偕楽園）（茨城県） 2024年3月1日認定

第21号 「新宿御苑 日本産絶滅危惧植物コレクション」環境省自然環境局新宿御苑管理事務所・一般財団法人国民公園協会新宿御苑（東京都） 2024年4月認定

第 22 号 「茅ヶ崎市氷室椿庭園 氷室氏作出ツバキコレクション」茅ヶ崎市（神奈川県） 2024 年 4 月
認定

③再認定審査

第 3 号 「宇治市植物公園 巨椋池（おぐらいけ）由来のハス」宇治市植物公園（京都府）」

④普及活動

- ・第 2 回技術者講習会「植物コレクションを使ったデジタル広報」

日時：2024 年 1 月 19 日

会場：名古屋市東山植物園

主催：ナショナルコレクション委員会・名古屋市東山植物園

参加者：参加 45 名

- ・第 1 回ナショナルコレクション情報交換会

日時：2024 年 2 月 20 日

会場：オンライン

主催：ナショナルコレクション委員会

参加者：40 名

内容：コレクションホルダーからの認定後の栽培の実際や問題点、利用実績の報告。意見交換会。

⑤情報公開

- ・認定コレクションに関するホームページの情報更新
- ・協会ホームページへの新規認定（15～17 号）コレクションのプレスリリースを掲載
- ・協会誌 58 号報告記事 「2022 年～2023 年認定日本植物園協会ナショナルコレクション」
- ・園芸文化協会「園芸文化 みんなの広場」での「貴重な植物遺産 ナショナルコレクションを観に行こう！」の記事掲載

4. ワシントン条約にかかる寄託管理事業（委託）

経済産業省との「絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約（ワシントン条約）に基づいて任意放棄され、取得した植物に係る保護及び育成の寄託管理契約」に基づき、経済産業省から寄託された植物の保護育成を行った。本事業は平成 7 年から継続、令和 5 年度の寄託依頼植物数 50 株、年度末の保護育成管理園 25 園・総保護数 3,364 株。令和 5 年度契約金額 3,292,664 円

5. 環境省連携事業(委託)

29 年度から継続して、環境省より「令和 5 年度希少野生植物の生息域外保全検討実施委託業務」を受託、当協会「環境省連携事業」として実施した。業務は植物多様性保全委員会に設置した環境省連携事業分科会が担当し、事業推進にあたった。委託業務は以下の 4 項目。①「国内希少野生動植物種等の生息域外保全手法の検討」は 24 種について実施、②「国内希少野生動植物種等の生息域外保全」は 23 種を野生株から採取、または分譲により取得した。①②は 7 種の公開用資料を作成し、可能な場合は、種子を種子保存拠点園（新宿御苑・沖縄美ら島財団）で管理した。③「種子保存に関する検討」は、超低温の種子保存施設を持つ沖縄美ら島財団に業務を再委託して実施した。④「生息域外保全情報管理システムに関する検討業務」では、オンラインデータベースの維持管理、改善を行なった。令和 5 年度委託費 8,002,200 円

6. 「オガサワラグワ里親計画」共同事業の推進

オガサワラグワの生息域外保全を実施する植物園の募集を継続。

(3) 学術や文化の振興

1. 第 58 回大会行事

担当：高知県立牧野植物園

会期：令和 5 年 5 月 29 日(月)～31 日(水)

会場：城西館（高知県高知市）

- ・ 第 58 回定時総会
- ・ 開会式、表彰式（協会表彰 4 件）、ナショナルコレクション認定証授与式（3 件）
- ・ 研究発表会（口頭発表 7 件、ポスター発表 11 件）
- ・ 分野別会議
- ・ 植物園と市民で育む生物多様性活動 報告会
- ・ 植物園研修：横倉山・佐川町コース、佐川町・ヒューマンライフ土佐コース、牧野植物園コース

2. 植物研究会・技術者講習会

①第 1 回技術者講習会

テーマ「植物と自然のしくみから学ぶ樹木剪定の基礎」

担当：国立科学博物館筑波実験植物園

日時：10 月 2 日

会場：国立科学博物館筑波実験植物園

参加者：22 名

内容：樹木の剪定の理論と実践（講師：二階堂太郎）

②第 2 回技術者講習会「植物コレクションを使ったデジタル広報」

担当：ナショナルコレクション委員会・名古屋市東山植物園

日時：1 月 20 日

会場：名古屋市東山植物園

参加者：参加 45 名

内容：午前中は園内視察。午後に園内外講師を交えて植物園にとって手薄となりがちな広報、特にデジタル広報を中心に、民間における PR 戦略のノウハウ等に関する講演と意見交換。

③第 1 回植物研究会「植物説明板の作製、データ管理などを主とした展示・園内管理」

担当：東京薬科大学薬用植物園

日時：3 月 12 日

会場：東京薬科大学薬用植物園

内容：園内ガイドツアー、講演「東京薬科大学薬草園の展示と工夫」、簡易植物説明版の作製、意見交換

3. 「日本植物園協会誌 第 58 号」

日本植物園協会誌第 58 号（A4 判 128 ページ、480 部）を 2 月に発行した。会員への配布のほか全国の都道府県立図書館に寄贈予定。

4. 分野別活動

□第1回目は各分野とも大会開催時に実施

■第1分野

(第59回国立大学植物園長会議・植物園協会第一分野拡大施設長会議)

担当：広島大学

期日：12月19日

会場：オンライン

■第2分野（第40回国立植物園運営会議）

担当：宇治市植物公園

期日：3月5日（火）～3月6日（水）

参加者：21園35名

テーマ：近年の気象の変化における植物園の対応と対策について

講演「源氏物語と四季—六条院を中心に—」

■第3分野

担当：白馬五竜高山植物園

期日：12月5日

会場：オンライン

参加者：8園10名

テーマ：白馬五竜高山植物園の絶滅危惧種保全の取り組み、環境省連携事業の紹介（生物多様性保全支援事業受託の流れ）

■第4分野

担当：東北医科薬科大学

期日：9月8日

参加者：12園13名

テーマ：薬草ガイドブックの改訂、観察会、種苗交換について

II：植物の栽培や自然環境の保全等についての教育及び普及啓発（公2）

(1) 講演会・シンポジウム・展示会

1. シンポジウム、講演会等

①第22回植物園シンポジウム「牧野富太郎と植物～『らんまん』の植物たちの魅力を伝える」

主催：公益社団法人日本植物園協会

共催：公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会

後援：練馬区、公益財団法人東京都公園協会、公益社団法人日本園芸文化協会

場所：日比谷図書文化館大ホール

期日：7月30日（日）

参加者：150名

内容：「牧野富太郎と植物～『らんまん』の植物たちの魅力」冊子配布、講演「植物のおもしろい話」

～牧野富太郎とらんまんの植物たち」、「Dr, Makino クイズにチャレンジ」、「植物採集と標本作り」、
「練馬区立牧野記念庭園の紹介」

②3 団体連携による共催事業

「自然との共生フォーラム～いきものの素晴らしさを感じ、伝え、活動する～」

主催：公益社団法人日本植物園協会、公益社団法人日本動物園水族館協会、公益財団法人国際花と緑
の博覧会記念協会

主担当：日本動物園水族館協会

会場：オンライン

期日：3月9日（土）

参加者：117名

内容：基調講演「いきものと共に歩む動物園水族館」

中村雅之（JAZA 副会長・マリンワールド海の中道 館長・シロワニ繁殖協議会 事務局長）
プレゼンテーション

「アマミトゲネズミ～域外保全の取り組み～」古根村 幸恵（宮崎市フェニックス自然動物園）

「どっこい生きてる、里山・里浜のラン」小幡 晃（東京都神代植物公園 元園長）

「カタツムリの多様性と環境との関わり」河野 甲（かたつむりミュージアムラセン館代表）

パネルディスカッション

ファシリテーター 村井良子氏（ミュージアムコンサルタント）

(2) 普及啓発資料の発行

1. ガイドブック、書籍等

日本植物園協会第4分野が作成した『薬草ガイドブック』シリーズの頒布を行い、児童生徒、学生、幅広い市民への知識向上や薬用植物を中心とした植物と文化に関する普及啓発を継続して行なった。いざない編、野外編を各5,000冊ずつ増刷した。

2. ニュース等広報物の配布

「植物園協会ニュース」発行なし。メールによる植物園協会ニュースを4回送付。

(3) 普及啓発資料の提供

1. パネル等のデータ貸出

・生物多様性のパネルデータ貸出（1件）。
・牧野富太郎・「らんまん」による植物園利用促進事業として、高知県立牧野植物園からデータ提供を受け、各植物園等で利用できる「植物園で牧野富太郎」を作成し、パネルデータの貸し出し（44件）を行ない、イベントや所管する園などで展示を行なった。

(4) キャンペーン

1. 「植物園の日」（5月4日）事業

個々の植物園でのSNS投稿に共通ハッシュタグをつけることを周知し、広報活動を実施した。

2. 絶滅危惧植物マーク広報

各植物園で継続的に活用。

3. 自然災害被災地支援事業

実施なし

4. YouTube 公式チャンネル

YouTube に設置した公式チャンネルで、当協会事業及び植物園への理解を深め、植物園の PR の向上を図ることを目的に情報発信（植物園オンラインツアー等）を継続して行なった。

5. 牧野富太郎・「らんまん」による植物園利用促進事業

「きみ、世の中に雑草という草はない」のぼりを 400 枚作製し、各 5 枚を 62 園に送付した。」

(5) 表彰

1. 表彰

協会表彰規程に基づき選考を行い、第 58 回大会時に表彰式を行った。

【木村賞】

鈴木 和浩 氏（国立科学博物館筑波実験植物園）

25 年にわたって 3,000 種を超えるラン科野生種の栽培管理に従事し、国際的にも評価の高いコレクションの構築に大きく貢献した。また卓越した栽培技術で珍しいランの開花に成功しているほか、他のさまざまな分類群の栽培困難な植物の栽培にも成功し、生息域外保全と展示、さらにそれらの植物を用いた研究に対しても多大な貢献をしてきた。

【植物園功労賞】

令和 5 年度該当者なし

【坂崎奨励賞】

関 正典 氏（東北大学学術資源研究公開センター）

広大な自然林の大部分が国指定の天然記念物である東北大学植物園において、通常的气象災害による倒木の発生や土砂崩れ、東日本大震災による斜面崩落・施設倒壊、マツ枯れやナラ枯れなどの対応対策に尽力され、植生の健全な管理に大きく貢献されてきた。また、絶滅危惧植物の域外保全や種の保存法対象種の圃場栽培実験などにも従事してきた。

【保全・栽培技術賞】

志内 利明 氏（富山県中央植物園）

栽培温室植物の葉が黄白化する現象は、灌水に使用している中水の水質（pH）が原因であり、微酸性化した中水の使用で症状や生育が改善すること、一方、好石灰植物では、微酸性化した中水の灌水で、逆に、葉の黄白化や衰弱が見られることを発見した。

微酸性化水の灌水による温室植物の葉色の改善について（日本植物園協会誌 57: 47-54 に発表）

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園

北海道日高地方様似町のアポイ岳およびその周辺に局在する固有種ヒダカソウ自生地株の保護・増殖の取り組みを 2011 年に開始し、増殖法の確立のみならず、冷却棚の開発、研究機関への協力、社会教育、増殖株の様似町への里帰りなど多岐にわたる活動を行なってきた。

北海道大学植物園におけるヒダカソウ *Callianthemum miyabeanaum* 生息域外保全の 10 年間（2011～2020 年）の成果（日本植物園協会誌 57: 66-71 に発表）。

(6) 教育普及活動

①第 7 回教育普及ワークショップ

日時：令和 6 年 2 月 28 日

会場：オンライン（Zoom ミーティング）

参加者：26 機関、32 端末（複数名が参加）の視聴

テーマ：を「新たな来園者層の獲得に向けた取り組みを考える」

牧野富太郎関連企画の実施報告会と検証を兼ねて行い、また、来園者の確保に向けた事例紹介やアイデアを出し合った。

②高知県立牧野植物園の協力のもと、連携企画「植物園で牧野富太郎」を実施し、企画パネルデータの送付等を行なった。

③オンラインで各園とつながるツアー、各園の桜の見どころ「植物園の花見旅」、NHK 朝の連続テレビ小説「らんまん」の放送終了に合わせた「ありがとうらんまん」を協会公式 YouTube チャンネルで公開した。

Ⅲ：目的の達成に必要な関連事業

1. 後援及び協賛等

【協力】

①一般社団法人日本公園緑地協会

都市公園制度制定 150 周年記念 令和 5 年度「ひろげよう 育てよう みどりの都市」全国大会

【後援】

①第 13 回国際食虫植物会議事務局

第 13 回国際食虫植物会議

②フラワー・ブラボー・コンクール実行委員会

令和 5 年度フラワー・ブラボー・コンクール（FBC）

③公益財団法人広島市みどり生きもの協会

特別企画展「牧野富太郎と広島」

④新潟県立植物園

開園 25 周年記念企画「牧野富太郎展」

⑤沖縄国際洋蘭博覧会実行委員会

令和 5 年度沖縄国際洋蘭博覧会

⑥公益財団法人日本補助犬協会

第 11 回 もっと知って補助犬キャンペーン

⑦公益財団法人宇治市公園公社 宇治市植物公園

絶滅危惧植物～京都の希少植物～

2. ホームページ活用及び広報活動

- ・ホームページリニューアル作業の実施、来年度初頭に公開予定

3. 諸会議

1. 第 58 回定時総会

日時 令和 5 年 5 月 29 日(月)14：30～16：00

会場 城西館（高知市）

2. 役員会・委員会等

【理事会】

- 第1回臨時理事会 令和5年4月18日（オンライン会議）
- 第2回臨時理事会 令和5年6月7日（書面）
- 第1回通常理事会 令和5年6月20日（オンライン会議）
- 第3回臨時理事会 令和5年12月8日（オンライン会議）
- 第2回通常理事会 令和6年3月1日（オンライン会議）
- 第4回臨時理事会 令和6年3月13日（書面）

【監査】

令和5年4月14日 栗山茂監事、松本寛司監事による令和4年度事業についての監査実施

【委員会】

- ・植物多様性保全委員会（メール会議）
 - 環境省連携事業分科会（オンライン会議・メール会議）
 - 外来種対策分科会（メール会議）
 - 拠点園ネットワーク分科会（10月1日大阪公大植物園、オンライン会議、オンライン意見交換会）
- ・植物情報システム委員会 3月14日（新宿御苑およびオンライン併催）
- ・ナショナルコレクション委員会 7月4日（オンライン会議）、1月20日（東山植物園）、3月20日（オンライン会議）
- ・ホームページ委員会（オンライン会議・メール会議）
- ・協会表彰候補者選考委員会（メール会議）
- ・教育普及委員会 3月1日（国立科学博物館本館およびオンライン併催）

4. 寄付、寄贈

■寄付金（10万円以上）

- ・齋藤 万壽子 氏 10万円（寄付金の使途：植物多様性保全事業）

5. その他

- ・富山県中央植物園開園30周年記念行事出席（西川会長）
- ・公益社団法人園芸文化協会 令和5年度園芸文化賞・表彰式祝辞（西川会長）
- ・2027横浜国際園芸博覧会への協力（倉重専務理事）
 - 植物アドバイザーボード
- ・温帯地域の花木・観賞樹木に関する国際シンポジウム（WOTZ2024）への協力（倉重専務理事）

令和5年度事業報告 附属明細書

令和5年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。